

下町葛飾の潜在能力を活かし、成長し続ける街に

区独自の教育施策や

公共交通網充実で定住促進



転入超過による人口増加 と自然減の拡大

二三男くんは、葛飾区の区政情報コーナーで『葛飾区人口ビジョン』と『葛飾区総合戦略』を借りて、さっそく読み始めました。

まずは、『人口ビジョン』を読みました。

葛飾区の人口は1980年以降、42万人く42万5000人の間で増減しながら推移してきましたが、2000年以降は増加基調に転じ、2010年には44万人を突破しました。

近年の人口増加を支えてきたのは、他の自治体からの転入超過です。その一方で、2008年以降、死亡

7年目を迎える山田洋次ミュージアムがリニューアルオープンします。

葛飾区は、映画『男はつらいよ』

だけでなく、『こち亀』や『キャプテン翼』など、区ゆかりのキャラクターの舞台となっています。区ではこうしたキャラクター等を活かした観光振興事業や観光ルートの開発など、区の観光地としての魅力を高めていくとともに、観光パンフレットやウェブサイトなど各種媒体を活用して区の魅力を効果的に発信していく考えです。

二三男くんは「アニメや映画の舞台となった葛飾区がこれからどんな成長を遂げていくのか調べてみよう」と、さっそく葛飾区役所に向かいました。

「この街は下町ならではの懐かしい雰囲気が残っているなあ」

二三男くんは、都内で初めて国の重要文化的景観に指定されて1周年を迎えた柴又を訪れていました。映画『男はつらいよ』でおなじみになった帝釈天の参道は、今日も多くの観光客が訪れて、にぎわっています。

今年に映画『男はつらいよ』の第1作公開から50周年を迎え、12月にはシリーズ50作目となる新作映画『男はつらいよ お帰り 寅さん』の公開が予定されています。区ではこれを機に、葛飾柴又の魅力をPRするため、様々なイベントを実施します。

4月には、開館から22年目を迎える葛飾柴又寅さん記念館、そして、

4月13日にリニューアルオープンした
葛飾柴又寅さん記念館と
山田洋次ミュージアム



葛飾柴又寅さん記念館／
山田洋次ミュージアム©松竹(株)





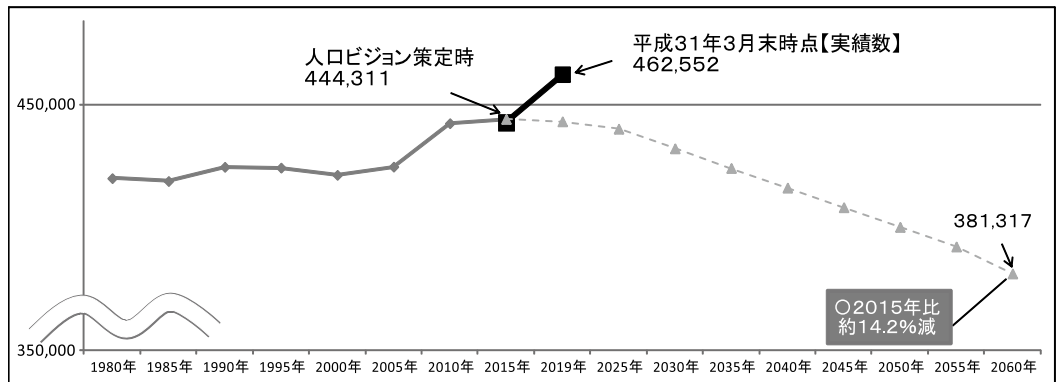
者数が出生者数を上回り、自然減の状況が固定化しつつあります。また、葛飾区の女性人口は、多くの女性が出産年齢となつている20代、30代の人口が減少しており、この10年間でそれぞれ1割強の減少が見られます。

こうした状況を踏まえ、『人口ビジョン』では2060年までの葛飾区の将来人口について、2025年頃までほぼ横ばいで推移した後、自然減拡大の影響によって2060年には2010年比で約14%、約6.1万人が減少して約38・1万人となると推計し、長期的には緩やかに減少していくと推測しています。

しかし、現在では、2015年度に策定した『人口ビジョン』の推移を大きく上回り、2019年4月1日現在の人口は46万3099人となり、増加傾向が続いています。

『人口ビジョン』では、今後の取り組みの方向性について、①街づくりの推進による葛飾区の利便性向上
②子育て環境の充実によるファミリー層の定住促進と出生者数の増加
③区内産業の活性化や地方都市との連携による葛飾区の魅力の向上――

■葛飾区の将来人口推計



三つの基本目標

の三つを掲げています。

一三男くんは次に『総合戦略』を読みました。

『総合戦略』では、『人口ビジョン』で示した三つの取り組みの方向性に沿って、目標を設定し、基本的方向や基本的施策などを示しています。

「Ⅰ 街づくりの推進による葛飾区の利便性の向上」では、基本的な施策として、新小岩駅、金町駅、高砂駅、立石駅周辺の開発事業の推進や、土地区画整理事業や地区計画などを活用し、地域の特性を活かした面的な市街地の機能向上、連続立体交差事業を中心とした都市基盤整備、地下鉄8・11号線の延伸、メトロセブンの新設の早期実現などを掲げています。また、バリアフリー対策や地域防災対策なども盛り込んでいます。

「Ⅱ 子育て環境の充実によるファミリー層の定住促進と出生者数の増加」では、保育所の設置や、学童保育クラブの設置など、子育て施策の拡充に加えて、在宅で子育てをしている親の育児不安や孤独感を解消するなど、多彩な保育サービスの提供を掲げています。また、学校教育環境の整備、関連医療情報の提供や治療費の補助、健康増進支援なども盛り込んでいます。

「Ⅲ 区内産業の活性化や地方都市との連携による葛飾区の魅力の向上」では、「寅さん」「こち亀」「キャプテン翼」を活用した観光まちづくりを推進すること、新たな観光資源の掘り起こしや観光ルートづくりを推進し、観光客の回遊性を向上させるなどの施策を掲げています。また、区内外及び業種を超えた中小企業間の交流の機会を充実させるとともに、区内産業・農業と区民との交流イベントなどを盛り込んでいます。

さらに、地元商店街を活かした街づくりや、雇用の創出、産学公連携による区内製造業・中小企業の振興なども基本的な施策に挙げられています。

一三男くんはさらに、具体的な施策について調べてみました。

公共交通網の充実

まちづくりの面からは、区内の公共交通網の一層の充実が必要です。葛飾区内には、東西に延びる鉄道と南北を結ぶバス路線がありますが、南北鉄道の不足や高齢者などの移動手段の確保など、課題が山積しています。

葛飾区は2018（平成30）年度に「葛飾区公共交通網整備方針」をとりまとめました。この整備方針では、目指すべき葛飾区の公共交通網のあり方を、「区民（利用者）、交通事業者、区が協働し、区内を移動するあらゆる人にとって『わかりやすく・利用しやすい公共交通網』とし、「公共交通の更なるサービス向上」「持続可能な公共交通網の構築」「関連分野との連携による地域の活性化」の三つを整備方針として掲げました。

バス利用者がバス停まで自転車を利用できる「サイクル&バスライド」



2019（平成31）年度からは、この整備方針に基づき、バス交通の充実や新金貨物線旅客化の検討などを進めます。

バス交通の充実については、高齢者や来訪者など、区内を移動するあらゆる人の移動の利便性向上を図るため、バス事業者と協働し、循環バス路線の導入などの検討を進めます。既存のバス路線網をもとに、公施設や医療施設へのアクセス拡充や観光客をはじめとする来訪者の回遊性の向上などを考慮し、区の財政

負担のあり方も含めて検討します。

また、バス停周辺にバス利用者が利用できる自転車駐輪場を整備する「サイクル&バスライド」にも取り組んでいます。2017（平成29）年度はモデル事業として、道路や児童遊園地を活用し、2箇所の駐輪場を整備しました。区は、今後もバス停周辺の整備可能な箇所に年に2箇所程度の設置を目指すとともに、駐輪場を設置する事業者への支援についても検討していくなど、バス利用のさらなる利便性向上を図っていきます。

新金貨物線旅客化の検討については、南北方向の鉄道網の充実を図るとともに、高齢者などの利便性向上や観光客の誘致が期待できる低床のライトレール車両の導入も考慮し検討しています。区の活性化につながる新金貨物線の旅客化の実現に向けて、国土交通省など関係機関との協議を行いながら検討を進めていきます。

今後、通勤や通学で公共交通を利用してきた生産年齢人口が減少すると、公共交通の路線維持にも影響が出てくることが予想されます。区民、

旅客化が検討されている新金貨物線



交通事業者、区が協働し、公共交通網の充実を図ることで、区民だけでなく、来訪者にとっても便利な街にしていくことができるのではないのでしょうか。

葛飾区の教育の特徴

葛飾区は、「人口ビジョン」「総合戦略」の分析からも分かるように、ファミリー層の定住促進と出生者数の増加が大きな課題です。特に未来を担う子どもたちを育てる教育の充実に注目してみました。



宿泊で英語漬けの生活ができる
イングリッシュキャンプ

2018（平成30）年度の全国学力・学習状況調査で、葛飾区は小・中学校ともに全国平均との前年度比較で成績がアップしました。その背景には、特徴的な教育施策があります。

区は2014（平成26）年度から、生活や学習の基準である「葛飾スタンダード」を策定し、区立小・中学校の児童・生徒の学力向上に取り組んできました。これは、子どもたち

に身につけてほしい約束事を定めた「かつしかっ子学習スタイル」や、分かりやすい授業を実践するための「葛飾教師の授業スタンダード」、学力の基礎・基本の定着を図るための「かつしかっ子チャレンジ」などの取り組みです。

「チャレンジ検定」では、「かつしかっ子チャレンジ」に示した基礎・基本の学習内容を、児童・生徒が8割以上正答するまで繰り返し挑戦させることで小1から中3まで全児童・生徒の合格を各校でめざし、基礎学力の着実な定着を図っています。また、「葛飾学力伸び伸びプラン」では、校長が自校の実態に即して策定した学力向上プランにより児童・生徒の確かな学力の定着と各学校の学力向上に向けた積極的な取り組みを推進しています。

また、「英語によるコミュニケーション能力」の育成を計画的に図ることによって、これからのグローバル社会をたくましく生き抜く「豊かな人間力」を育成しようと、「かつしかグローバル人材育成事業」を進めています。中学生の海外派遣やイングリッシュチューターで小学校担任が土

曜授業参観で授業を公開するほか、宿泊で英語だけの生活を送る中学生対象のイングリッシュ・キャンプは、今年度から日本で有数の先進的な英語村で実施します。

高校進学や大学進学を控えた子どもを持つ家庭にとって、学習塾などの教育機関はどうしても都心部に集中する傾向にあります。しかし、葛飾区では、子どもが自ら実践する行動規範を示した「かつしかっ子」宣言を掲げ、地域と共に豊かな心を持った子どもへの育成という独自の教育理念を掲げ、すべての子どもに確かな学力をつけ、グローバル社会に立ち向かえる人材を育成しようと同様な取り組みを行っています。こうした取り組みが子どもたちの学力アップにもつながり、葛飾区で子育てしたいファミリー層の支持を受けているのです。

下町の魅力残る葛飾区

最新の区の世論調査では、今後も葛飾区に住み続けたいという区民の割合が前回を大きく上回る84・5%となりました。下町人情の厚い葛飾区が区民に愛されていると同時に、

区の子育て支援やまちづくりに対する区民の高い評価の表れでもあります。しかし、少子高齢化や人口減少社会の到来により、このままでは地域の活力が損なわれてしまう可能性もあります。区は、さらに住み続けたいと思う区民を増やしていかねばなりません。

二三男くんは『男はつらいよ』や『こち亀』といった映画やアニメは、下町ならではのおせっかい精神が巻き起こす物語だった。葛飾区に住み続けたいと思う人たちは、きっとそこに魅力を感じていると思う。葛飾区はこれからも、街の利便性の向上や子育て環境の充実といった総合戦略に掲げる施策を推し進めつつ、災害にも強い安心・安全な街へと成長を続けることで、「住み続けたい」と思う区民を増やしていきたい。葛飾区は、今後、一層、暮らしやすい街へと成長するだけの潜在能力を持っていると感じた」と語りました。

調べ物を終えた二三男くんは、「次は、『こち亀』の舞台となった亀有を歩いてみようかな」と、下町情緒あふれる葛飾の街へと向かいました。